

第1回3ダムサブWG会議 (2004. 8. 7 開催) 結果報告		2004. 8. 25 庶務発信
開催日時:	2004年8月7日(土) 13:15~16:30	
場所:	京都市リサーチパーク 西地区4号館2階 第1会議室	
参加者数:	サブWGメンバー委員14名、サブWGメンバー外委員6名、河川管理者39名 一般傍聴者(マスコミ含む)10名	
<p>1 審議の概要</p> <p>※冒頭、水山リーダーより、3ダム(丹生・大戸川・天ヶ瀬)サブWGの進め方について説明が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の3ダムサブWGで代替案の議論を、次々回で3ダムサブWGの結論(案)を作成したいと考えている。 ・3ダムサブWGでは、各ダムの目的や必要性(治水面、利水面、環境面等)、クリアしなければならない条件(各ダムの歴史的経緯や地元の問題等)を整理したい。河川管理者には、環境への影響・コスト・効果等について、一覧表形式にまとめた資料をお願いしたい。 <p>①丹生ダムについて</p> <p>※河川管理者より、資料1-1~1-4を用いて説明が行われた後、主に高時川の瀬切れ問題について意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり(例示)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高時川の瀬切れは、100年以上前から常態化している。これを解消するために社会投資(ダム建設)をすべきなのか、また、地元が瀬切れ解消をどこまで必要としているのかについて、議論すべき。 ・瀬切れが自然現象であれば、これを解消する必要はないが、高時川の場合、農業用水の取水が瀬切れの大きな原因となっている。今後の農業用水の方向性について、検討すべき。 ・生物生息環境の観点からみれば、瀬切れは魚類の移動阻害の要因となっている。生物にとって致命的な時期(産卵期等)の移動経路を確保するための瀬切れ解消という視点で考えるべき。瀬切れだけを取り上げて議論をしても意味がない。 ・瀬切れ解消は、「川らしい川」の回復のための重要な指標の1つだ。 ・瀬切れ解消のためにダムが必要というのはおかしい。高時川の農業用水不足を解決するために、余呉湖からの逆水かんがい計画が進んでいる。 ・高時川の瀬切れに関する資料は、水循環と生物の関係、河川水と農業開発の関係についてまとめればよいと思う。 ・ダム建設の目的として、瀬切れ解消だけを取り上げて意味がない。環境回復のためにダムを建設するには(毒をもって毒を制するというやり方を実行するには)、よほど明確な効果とその説明が必要だ。 <ul style="list-style-type: none"> ←河川管理者にできるメニューの1つとして、ダムからの補給について説明した。瀬切れ解消のためだけのダム建設はハードルが非常に高いと思っているが、他の目的を確保しているダムに、瀬切れ解消のための容量を付加するという考え方は有効だと思っている。(河川管理者)。 ・河川管理者には、コストを考慮した資料の提供をお願いしたい。たとえば、1m³/sあたりの維持流量を流すために必要なコストといった数値を明確にしておく必要がある。 <p>②大戸川ダムについて</p> <p>※河川管理者より資料1-5を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり(例示)。</p>		

- ・大戸川ダムに関しては、その効果について、メリット・デメリット等の詳細な情報を出してもらう必要がある。これまでの情報だけで、WGとしての結論が出せるか、不安だ。
 - ←現在作業中である。次回のダムWGでの提出は難しいが、できるだけ急ぎたい（河川管理者）。
 - ←各ダムの効果については、これまでも資料を提出しているが、追加的な情報も含めて、今後説明していきたい（河川管理者）。
- ・流域委員会は、地元の意見を見落としてしまう恐れがある。河川管理者は、地元の意見やダムのマイナス効果（ダム建設により洪水への油断が発生し、かえって被害が拡大する）について、追加記入した方がよい。
- ・10月以降にも、河川管理者による地元住民への説明会の開催が予定されているが、ここで出た住民意見はダムWGのとりまとめには反映されないのか。
 - ←ダムWGのとりまとめまでに出された住民意見については反映したい（リーダー）。

③天ヶ瀬ダム再開発について

※河川管理者より資料1-7を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・河川管理者は、将来的に琵琶湖の水位操作規則を変更するつもりがあるのか。
 - ←洗堰の操作規則は、歴史的な経緯を経て決定した規則があるため、現在のところ、これを前提に考えている。しかし、今後、必要があれば変えていきたいとは思っている（河川管理者）。
- ・天ヶ瀬ダム再開発に関しては、宇治川・塔の島地区の景観問題がポイントだろう。これに配慮すれば、事業を進めてもよいということで、委員会の意見はある程度一致しているのではないか。
- ・塔の島地区は、現在の河道のままでも、1500m³/s 流れるのではないか。

2 一般傍聴者からの意見：主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・宇治川・塔の島地区では、河道掘削に伴うさまざまな工事により景観破壊が進行している。委員会には、掘削以外の方法について議論して頂きたい。また、琵琶湖沿岸の浸水被害について、詳細なバックデータを用いた解析を行って頂きたい。
 - ←塔の島地区の掘削に関しては、現在も検討中だが、掘削ピッチを短くしたり、道路のかさ上げ等によって、河道掘削はできるだけ少なくしたいと考えている（河川管理者）。
- ・来年1月までに結論を出すという委員会のスケジュールは、河川管理者の調査検討の進捗を考慮して決定されたのか。委員の任期によってスケジュールが決定されたとすれば、大いに不満だ。
- ・利水の調査検討は、出そうと思えば出せる状況ではないか。委員会は、調査検討を急がせるべき。

3 その他

琵琶湖沿岸の浸水被害について、意見交換が行われた。主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・今年の水位操作では、10日間で数十cm低下させている。資料1-3にある河川管理者の考え（水位を10日程度維持）と一貫していない。こういうことが起きるなら、操作規則の変更が必要だ。
- ・水位操作については、流域委員会で議論しておくべきだ。そのためにも、河川管理者が新たな水位操作規則を考えてシミュレーションをし、その結果に基づいて議論を進めていく必要がある。
- ・結局、水位操作が環境に与える影響について検討結果が出ない限り、WGの結論は出せないのではないか。

※このお知らせは委員の皆様主に決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。